

授業科目名： 物理学講義	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：西尾信一 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>自然科学や科学技術の基礎である物理学の概論である。物理学はすべての自然科学の基礎となるものであり、身の回りの物質や現象から原子よりも小さなミクロの世界や宇宙レベルのマクロの世界に至るまで、自然界の姿の多くを説明することに成功してきた。その基礎的な知識・概念・考え方を獲得することを目標とし、それらを用いて日常生活やスポーツなどの身近な現象や課題を物理的に考える力を養う。物理学の中等教育のさまざまな分野の基礎的事項を精選して扱い、計算よりも基礎概念と基本的法則の理解を優先する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業中は考えることや議論することを重視する。公式を覚えて計算するような場面はあまりなく、視聴覚教材、デジタル教材、ミニ実験などを積極的に活用する。</p> <p>講義では、教員が作成した講義資料の内容をスクリーンに提示して解説する。講義資料はところどころ空所があり、学生が授業を受けながら書き込みをすることを想定しており、Webで公開されたものを事前にダウンロードして印刷するかタブレットでファイルに書き込みができるように準備させる。毎講義の途中でいくつかの課題（Web上の選択肢形式）を課し、授業の最後には文章による説明課題（Web上のテキスト入力形式）を課すことにより、授業への集中と理解確認を促す。講義終了後には、Webで確認試験を提出してもらう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：力とそのつりあい 第2回：運動の法則 第3回：いろいろな運動 第4回：運動量保存則 第5回：仕事とエネルギー、エネルギー保存則 第6回：熱と温度、状態変化 第7回：圧力、熱力学の法則 第8回：波と音・光 第9回：波の干渉と回折 第10回：波の反射と屈折 第11回：ドップラー効果、偏光・散乱・分散 第12回：電荷と電場 第13回：電気回路 第14回：電流と磁場、電磁誘導 第15回：原子構造、原子核と放射線</p>			
<p>テキスト</p> <p>「新しい高校物理の教科書」山本明利・左巻健男（講談社）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「日常の疑問を物理で解き明かす」原康夫・右近修治（ソフトバンククリエイティブ） 中学校・高等学校で使用した理科の教科書等</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業中および授業終了後に提出する課題（50%）。授業後の確認試験（50%）。</p>			

授業科目名： 薬学物理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：西尾信一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>薬学を学ぶ上で必要な物理学の基礎力を身につけるために、原子および熱力学についての基礎知識と基礎的な概念を修得する。放射線は診断と治療の重要な手段であるし、放射能をもつ医薬品も存在する。エネルギー準位は、機器を用いた薬の分析の原理を理解するために必要な知識である。また、熱と温度、エネルギーとエントロピーなどは、薬の体内での溶け方や効き方を扱う薬学の基礎となる。この講義では、薬学に関わるこれら原子および熱力学分野の基礎を扱う。併せて、これらの分野の科学リテラシーの育成を図る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>講義では、教員が作成した講義資料の内容をスクリーンに提示して解説する。講義資料はとこるところ空所があり、学生が授業を受けながら書き込みをすることを想定しているので、WebClassに公開されたものを事前にダウンロードして印刷をするかタブレットでファイルに書き込みができるように準備すること。毎講義の途中でいくつかの課題（Formsの選択肢形式）を課し、授業の最後には特定の用語についての説明課題（Formsのテキスト入力形式）を課すことにより、授業への集中と理解確認を促す。講義終了後には、WebClassで確認試験を提出してもらう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：原子(1) 放射線と放射能、放射能の半減期と放射線の人体への影響 第2回：原子(2) 光の粒子性、X線の粒子性と波動性 第3回：原子(3) 水素原子のスペクトル、原子のエネルギー準位 第4回：熱力学(1) 熱と温度の関係、熱容量と比熱 第5回：熱力学(2) 圧力と気体の状態方程式、状態量と気体のp-V図 第6回：熱力学(3) 気体の分子運動とエネルギーの関係、内部エネルギーとモル熱容量 第7回：熱力学(4) 熱力学における系・外界・境界、熱力学第一法則と熱機関 第8回：熱力学(5) 定容過程・定圧過程・等温過程・断熱過程、エントロピーと熱力学第二法則</p>			
<p>テキスト</p> <p>①日本薬学会編（2013）『薬学の基礎としての物理学（プライマリー薬学シリーズ2）』東京化学同人 ②新スタ薬シリーズ編集委員会編（2024）『基礎薬学 I. 物理化学（新スタンダード薬学シリーズ 第3巻）』東京化学同人</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>①山本明利、左巻健男（2006）『新しい高校物理の教科書』講談社 ②安西和紀他 3名（2015）『わかりやすい薬学系の物理学入門』講談社 ③大林康二他 4名（2013）『薬学の基礎としての物理』学術図書出版社 ④廣岡秀明他 4名（2019）『医療系の基礎としての物理』学術図書出版社</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業中および授業終了後に提出する課題（50%）。授業後の確認試験（50%）。</p>			

授業科目名： 化学講義	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 和田重雄、長谷川登志夫 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
授業のテーマ及び到達目標			
身の回りの全ての物体を構成している物質の特性を系統的に学習する。化学反応が起こる理由が分かると、未知なる反応も予想できるようになる。そのような、ルールを学び取ること为目标とする。			
授業の概要			
化学物質の性質や化学反応が起こる理由などの多くが、物質内の電荷の偏りで説明ができる。まずは、原子の基本的な性質を学習した後に、世の中のさまざまな化学現象を容易に解釈できるように講義していく。また、苦手意識の高い計算問題も効率よく解答できる方法を学習する。			
授業計画			
第1回：化学とは？（担当：和田重雄）			
第2回：原子：原子核と電子（担当：和田重雄）			
第3回：元素の周期律・周期表（担当：和田重雄）			
第4回：化学式、イオン式、化学反応式（担当：和田重雄）			
第5回：物質の質量、濃度、化学反応の計算（担当：和田重雄）			
第6回：化学結合1－共有結合、分子の極性（担当：長谷川登志夫）			
第7回：化学結合2－イオン結合、金属結合、結晶の構造（担当：長谷川登志夫）			
第8回：物質の三態、溶液の性質（担当：長谷川登志夫）			
第9回：気体の性質（担当：長谷川登志夫）			
第10回：熱化学（担当：長谷川登志夫）			
第11回：反応の進み方と化学平衡（担当：長谷川登志夫）			
第12回：酸と塩基、中和（担当：和田重雄）			
第13回：酸化と還元（担当：和田重雄）			
第14回：物質の世界1－無機物質（担当：和田重雄）			
第15回：物質の世界2－有機化合物・高分子（担当：長谷川登志夫）			
テキスト			
左巻健男・和田重雄他（2008）『基礎化学12講』化学同人			
参考書・参考資料等			
長谷川登志夫（2014）『マンガでわかる有機化学』オーム社、和田重雄、木藤聡一（2017）「薬学系基礎がため化学計算」、和田重雄、木藤聡一（2017）「薬学系基礎がため有機化学」			
学生に対する評価			
確認テスト（70%）、課題（30%）で評価する			

授業科目名： 生活の化学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高山博之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
授業のテーマ及び到達目標 身の回りにある化学製品の成り立ちを理解することを通して、化学の基本的知識を修得する。			
授業の概要 われわれの身の回りは、化学製品であふれている。代表的な生活用品の作成方法やその性質等を理解することが、毎日の生活に潤いを与える。製品の成分や成り立ちを説明しながら、化学の基礎的原理を講述する。			
授業計画 第1回：イントロダクション、化学の基本事項 第2回：酸性・塩基性の化学 第3回：衣服の化学 第4回：洗濯の化学 第5回：水の化学 第6回：プラスチックの化学 第7回：料理の化学 第8回：コロイドの化学 第9回：薬の化学 第10回：化石資源の化学 第11回：材料の化学 第12回：電池の化学 第13回：電気製品の化学 第14回：固体、液体、気体の化学 第15回：総まとめ			
テキスト 芝原寛泰・後藤景子著（2009）『身の回りから見た化学の基礎』化学同人			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 確認テスト（70%）、課題（30%）で評価する			

授業科目名： 医薬品の化学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高山博之 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
授業のテーマ及び到達目標 医薬品の作用（効果）が、化学構造と密接に関連していることを理解する。			
授業の概要 主として、登録販売者として理解しておくべき一般用医薬品を取り上げる。医薬品化学は情報科学でもある。医薬品の構造から、医薬品の作用が理解できるとともに、副作用を予測することも可能である。構造式と薬理作用を結びつけて考えることができるような基本的知識を修得する。			
授業計画 第1回：基礎事項1 構造式、官能基 第2回：基礎事項2 構造式と溶解性（水溶性・脂溶性）の関係 第3回：殺菌消毒薬 概要 第4回：殺菌消毒薬 詳細 第5回：ビタミン剤 概要 第6回：ビタミン剤 詳細 第7回：解熱鎮痛薬 第8回：鎮咳去痰薬 第9回：点鼻薬・鼻炎用内服薬 第10回：眼科用薬 第11回：胃腸薬 第12回：整腸薬・止しゃ薬 第13回：外用消炎鎮痛薬 第14回：催眠鎮静薬、眠気防止薬・乗り物酔い予防薬 第15回：演習			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 日比野利、夏川英昭、廣田耕作（2011）『New 医薬品化学』廣川書店 中島恵美・伊東明彦（2010）『今日のOTC 薬－解説と便覧』南江堂			
学生に対する評価 確認テスト（70%）、課題（30%）			

授業科目名： 疾病と治療薬	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：井上裕子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>一般用医薬品として用いられる主な有効成分に関して、基本的な効能効果及びその特徴、飲み方や飲み合わせ、年齢、基礎疾患等、効き目や安全性に影響を与える要因、起こりうる副作用等について理解を深め、購入者への情報提供や相談対応に活用できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>代表的な疾患の病気の成り立ちを理解し、その疾患に対してどの薬物を使用するのかについて学んでいきます。多数の薬物に遭遇しても知識を応用できるような基盤を与えることを目的とし、疾病と治療薬では、2類および3類に分類される一般用医薬品薬について、代表的な配合成分等の働き、主な副作用、相互作用、受診勧奨等について解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生体防御機構の異常による疾患とその治療薬Ⅰ 炎症、免疫のしくみと解熱鎮痛薬について</p> <p>第2回：生体防御機構の異常による疾患とその治療薬Ⅱ アレルギー反応と抗アレルギー薬について</p> <p>第3回：血液の異常による疾患とその治療薬</p> <p>第4回：循環器系の異常による疾患とその治療薬</p> <p>第5回：呼吸器系の異常による疾患とその治療薬</p> <p>第6回：消化・吸収機能の障害とその治療薬</p> <p>第7回：肝臓、膵臓の機能障害とその治療薬</p> <p>第8回：腎・泌尿器系の異常による疾患とその治療薬</p> <p>第9回：内分泌系の異常による疾患とその治療薬</p> <p>第10回：代謝系の異常による疾患とその治療薬</p> <p>第11回：生殖器系の異常による疾患とその治療薬</p> <p>第12回：脳・神経系の異常による疾患とその治療薬</p> <p>第13回：白内障、緑内障等眼の疾患とその治療薬</p> <p>第14回：聴覚器の異常、めまいとその治療薬</p> <p>第15回：消毒、抗菌薬、皮膚疾患と治療薬</p>			
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野[5] 病態生理学 医学書院</p>			
<p>参考書・参考資料等 なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>講義中に行う小テスト50%、課題提出物50%、合計100%で評価する。</p>			

授業科目名： 生物学講義	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：菌部幸枝 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
授業のテーマ及び到達目標 生物学の基本となる事項について、その解明の歴史を踏まえつつ知見を修得する。			
授業の概要 生物学では、中学校及び高等学校理科の学習に関連する内容について、その内容の解明の歴史を踏まえつつ、分子レベルでの理解を深める授業を展開します。			
授業計画 第1回：ガイダンス、生物学を学ぶ意義、生命観の変遷 第2回：生物学の進歩の歴史（課題レポート①をもとに） 第3回：細胞と分子 第4回：細胞周期とタンパク質 第5回：細胞の増殖と染色体 第6回：減数分裂と染色体 第7回：酵素と化学反応 第8回：体内の情報伝達機構と恒常性 第9回：感染症とその克服 第10回：感染症との闘いの歴史（課題レポート②をもとに） 第11回：ストレスと恒常性、遺伝学の進歩の歴史（課題レポート③をもとに） 第12回：生命の設計図DNAとその発現 第13回：染色体とDNA、遺伝子の伝わり方 第14回：バイオテクノロジーの進歩（課題レポート④をもとに） 第15回：生物進化と系統			
テキスト 新課程二訂版 スクエア最新図説生物図説（第一学習社）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 課題レポート（50%）、授業ごとの振り返りシート（小テスト含む）（50%）。			

授業科目名： 生物の基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：岡田直子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、細胞を構成する小器官や細胞内成分、酵素反応の特徴や活性調節機構、エネルギー代謝について理解し、説明できることを目指します。また、最新の生命科学トピックについて文献やインターネットを活用して調査し、受講生同士の討論を通じて、プレゼンテーション（発表資料作成、質疑応答など）のスキルを習得することを目的とします。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>細胞は、生命体を構成する基本単位であり、その内部には細胞小器官が秩序正しく配置されています。細胞が生命活動を維持するためには、外部から栄養素（タンパク質・アミノ酸、糖質、脂質など）を取り込み、代謝によってエネルギーを産生し、消費します。これらの仕組みについて、主体的に学び、生命体の恒常性が崩れることで発症する疾患の仕組みや、予防・治療について理解を深め、生命科学や医療全般への関心を高めることを目指します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生物と生体成分、細胞小器官の基本構造 第2回：アミノ酸・タンパク質の構造、性質 第3回：糖質の分類と構造、性質 第4回：脂質の分類と構造、性質 第5回：生命科学の最新トピックスに関するグループワーク（1）調査 第6回：生命科学の最新トピックスに関するグループワーク（2）発表準備 第7回：生命科学の最新トピックスに関するグループワーク（3）発表 第8回：酵素の基本的性質および酵素反応 第9回：解糖系の役割とエネルギー産生 第10回：クエン酸回路 第11回：グルコースの主な代謝系の役割とエネルギー産生 第12回：血糖調節の仕組みと糖尿病 第13回：脂肪酸の代謝とエネルギー産生 第14回：コレステロールの生合成と利用 第15回：アミノ酸の代謝と尿素生成</p>			
<p>テキスト</p> <p>林典夫, 広野治子他『シンプル生化学 改訂第7版』南江堂</p>			
<p>参考書・参考資料等 なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>予習クイズ（12回分：12%）、復習テスト/コメントシート（15回分：15%）、課題レポート（2回分：40%）、グループワーク（33%）で評価する。</p>			

授業科目名： 人体の構造と働き I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：井上裕子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>人体の構造、機能、調節に関する基本事項を修得し、生命を維持する働きと生命を活用する働きについて、細胞、組織、器官レベルで系統的に関係づけることをめざします。この科目の習得は、本学の定めるディプロマ・ポリシー DP-1の達成に関与しています。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、正常な人体の構造と形態（解剖）をその構成単位である細胞レベルから組織・器官レベルまで理解し、さらにその働き（生理）との密接な関連を体系的に学びます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：人体の構造と働き I 講義概要</p> <p>第2回：人体の素材としての細胞・組織の構造、働き</p> <p>第3回：口・咽頭・食道の構造と機能、腹部消化管の構造と機能</p> <p>第4回：膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能</p> <p>第5回：呼吸器の構造、呼吸</p> <p>第6回：血液、リンパとリンパ管</p> <p>第7回：循環器系の構成、心臓の構造、心臓の拍出機能、末梢循環系の構造、血液の循環の調節</p> <p>第8回：腎臓、排尿路、体液の調節</p> <p>第9回：自律神経による調節、内分泌系による調節</p> <p>第10回：人体の骨格、骨の連結、骨格筋、骨格と筋の働き</p> <p>第11回：神経系の構造と機能、脊髄と脳、脊髄神経と脳神経、運動機能の下降伝導路、感覚機能、体性感覚と上行伝導路</p> <p>第12回：目・鼻・耳 の構造と働き</p> <p>第13回：全身作用と局所作用、薬の生体内運命、薬の体内での働き、剤形ごとの違い、適切な使用方法</p> <p>第14回：全身的に現れる副作用、精神神経系に現れる副作用、体の局所に現れる副作用</p> <p>第15回：人体の構造と働きについての概説</p>			
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野[1] 解剖生理学 医学書院</p>			
<p>参考書・参考資料等 なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>講義中に行う小テスト50%、課題提出物50%、合計100%で評価する。</p>			

授業科目名： 薬理学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：新井一郎 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
<p>授業のテーマ及び到達目標 人体に関する生物学の基礎を学ぶとともに、医療関連産業や医療機関で必要とされる医療およびビジネス領域に関する幅広い専門知識の修得を目指し、登録販売者と同等の知識の獲得を目指す。</p>			
<p>授業の概要 現在、用いられている代表的な医薬品が、どのように生体に作用して、病気を治療するかについて解説する。薬理学Ⅰでは、薬理学の基本事項、および、医療用医薬品・一般用医薬品の共通領域について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：薬が「効く」ということはどういうことか、医療用医薬品と一般用医薬品の関係 第2回：薬の効果と毒性、薬の作用とその作用点、受容体 第3回：薬の投与経路、体内における薬の動き 第4回：薬の安全性、副作用、相互作用 第5回：咳・痰に用いる薬の作用 第6回：気管支喘息に用いる薬の作用 第7回：呼吸器系に用いる薬の作用、禁煙補助剤 第8回：下痢、便秘に用いる薬の作用 第9回：胃潰瘍、ディスペプシアに用いる薬の作用 第10回：嘔吐、痔に用いる薬の作用 第11回：IBD、クローン病、潰瘍性大腸炎に用いる薬の作用 第12回：眼に作用する薬 緑内障、白内障、加齢黄斑変性など眼の疾患に用いる薬の作用、OTC点眼薬 第13回：皮膚に用いる薬 アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎などの皮膚炎、真菌感染症、褥瘡・皮膚潰瘍、乾癬、尋常性白斑に用いる薬、発毛剤の作用 第14回：漢方・生薬製剤の作用 第15回：課題発表会</p>			
<p>テキスト</p> <p>黒山政一、香取 祐介（2019）『初めの一步は絵で学ぶ 薬理学 第2版 疾患と薬の作用がひと目でわかる』じほう</p>			
<p>参考書・参考資料等 なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>確認テスト（60%）、課題レポート（40%）で評価する</p>			

授業科目名： 生命をミクロに理解する	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：岡田直子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、自律神経系と内分泌系による生体内の調節機構と恒常性維持、DNAの転写・翻訳を通じた遺伝情報の伝達とタンパク質発現について学びます。生命活動を分子レベルで考える視点を養い、疾患の発症メカニズムや予防・治療への応用を理解します。さらに、グループワークや教員のフィードバックを活用し、生命科学の最新トピックを議論することで、コミュニケーション力や課題発見・解決力を身につけることを目的とします。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、生命現象をミクロな視点で理解し、分子レベルで考える基礎知識を習得することを目的とします。具体的には、自律神経系や内分泌系による生体調節機構と恒常性維持、核酸（DNA、RNA）の機能と遺伝情報伝達を体系的に学びます。講義では、課題レポートやグループワークを通じて、知識の定着と主体的な学びを促します。これらより、疾患の発症メカニズムについて理解を深め、生命科学や医療全般への関心を高めることを目指します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ホメオスタシス（恒常性）とは？ 第2回：自律神経系①～解剖学的な特徴、拮抗的二重支配 第3回：自律神経系②～神経伝達物質と受容体 第4回：内分泌系①～ホルモンと情報伝達 第5回：内分泌系②～代表的なホルモンの産生器官、生理活性及び作用機序 第6回：内分泌系③～生殖系、性周期とホルモン 第7回：生命科学の最新トピックスに関するグループワーク①調査 第8回：生命科学の最新トピックスに関するグループワーク②発表準備 第9回：生命科学の最新トピックスに関するグループワーク③発表 第10回：核酸①～ヌクレオチドと核酸（DNA、RNA）の種類、構造、性質 第11回：核酸②～セントラルドグマ、DNAの複製 第12回：核酸③～DNAからmRNAへの転写過程 第13回：核酸④～mRNAからタンパク質への翻訳 第14回：核酸⑤～PCR法の原理と応用 第15回：講義まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>林典夫、広野治子他『シンプル生化学 改訂第7版』南江堂 坂井建雄『人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第11版（系統看護学講座（専門基礎分野））』医学書院</p>			
<p>参考書・参考資料等 なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>予習クイズ（11回分：11%）、復習テスト/コメントシート（15回分：15%）、課題レポート（2回分：20%）、学習到達度試験（20%）、グループワーク（34%）で評価する。</p>			

授業科目名： 栄養学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋徹 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習教育目標：本講義は、摂取した栄養素をもとに生命維持に必要な生理現象、摂食行動、食事摂取基準について学ぶことを目標とします。さらに自身の食事を省みることができるようになることも目指します。 ・到達目標：本講義を基礎として、疾病予防などを考慮して自身の食事を省みることができるようになることを目指します。毎日の食事について考える機会が増やすようにします。この科目の習得は、本学医療ビジネス薬科学部が定めるディプロマポリシー「疾病の予防や治療について創造的思考力」の達成に関与しています。 			
<p>授業の概要</p> <p>栄養学は、人の体から食べ物の摂食、消化・吸収、代謝、排泄までを扱います。視点としては、人の体全体を対象とします。そのため、生理学や解剖学とも共通部分が多いです。また、代謝では生化学の知識が必要になります。本講義は、主に健常者を対象として基本的な栄養学についての知識を学ぶことを目的とします。日本人にとって不足しがちな栄養素・過剰な栄養素、エネルギー、食欲の調節などについて学修します。一部、疾病予防と栄養素との関連についても概説します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回「導入」：栄養の定義、食事摂取基準の紹介、国民栄養調査と食事摂取基準からわかることについて学習する。</p> <p>第2回「栄養の概念」：栄養と健康・疾患、遺伝形質と栄養の相互作用について習得する。</p> <p>第3回「食物の摂取」：満腹感・空腹感と食欲、摂食量の調節、食事のリズムとタイミングについて学修する。</p> <p>第4回「消化・吸収と栄養素の体内動態1」：消化器系の構造と機能、水消化・吸収と栄養、消化過程(分泌源別の酵素・活性化・基質・終末産物)の概要について学修する。</p> <p>第5回「消化・吸収と栄養素の体内動態2」：管腔内消化の調節、膜消化・吸収、栄養素別の消化・吸収、生物学的利用度(生物学的有効性)について学修する。</p> <p>第6回「炭水化物の栄養1」：炭水化物の概要、糖質の分類、エネルギー源としての作用、血糖とその調節について学修します。</p> <p>第7回「炭水化物の栄養2」：血糖とその調節、糖質の体内代謝について学修します。</p> <p>第8回「炭水化物の栄養3」：他の栄養素との関係、食物繊維について学修します。</p> <p>第9回「脂質の栄養1」：脂質の種類とはたらき、脂質の臓器間輸送、脂質の体内代謝、貯蔵エネルギーとしての作用、摂取する脂質の量と質の評価、について学修します。</p> <p>第10回「脂質の栄養2」：脂肪酸由来の生理活性物質、他の栄養素との関係、血糖値と脂質代謝、ペー酸化、ケトン体合成、コレステロール合成、脂肪酸合成、脂肪酸の動員について学修します。</p> <p>第11回「たんぱく質の栄養」：アミノ酸・たんぱく質の構造・機能、たんぱく質・アミノ酸の体内代謝、アミノ酸の臓器間輸送、摂取するたんぱく質の量と質の評価、他の栄養素との関係について学修します。</p> <p>第12回「ビタミンの栄養」：ビタミンの構造と機能、ビタミンの栄養学的機能、ビタミンの生物学的利用度、他の栄養素との関係について学習します。</p> <p>第13回「ミネラルの栄養1」：ミネラルの分類と栄養学的機能、硬組織におけるはたらき、生体機能の調節機構について学修します。</p> <p>第14回「ミネラルの栄養2」：酵素反応の賦活作用、酵素反応の賦活作用、鉄代謝と栄養、ミネラルの生物学的利用度について学修します。</p> <p>第15回「エネルギー代謝の概念および総括」：エネルギーについて学習します。また、総括も行います。</p>			
<p>テキスト</p> <p>田地陽一／編、栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第5版、羊土社</p>			
<p>参考書・参考資料等 なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への参加度40%、小テスト40%、総合評価20%</p>			

授業科目名： 栄養生理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：篠崎文夏 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
授業のテーマ及び到達目標 各栄養素の働きと生体機能との関連についての知見を修得する。			
授業の概要 栄養生理学では、栄養素と様々な食品の成長や健康における役割および代謝に対する影響を取り扱います。本科目では栄養素の代謝と栄養、臓器・組織の構造と栄養素の代謝機能、栄養素による機能調節および疾患の要因や病態と栄養の関連について学びます。また、食や食品成分による疾患予防の可能性について分子や細胞レベルの新しい知見を元に解説します。			
授業計画 第1回：代謝とエネルギー 第2回：糖質の代謝と栄養 第3回：脂質の代謝と栄養 第4回：タンパク質の代謝と栄養 第5回：ビタミンの代謝と栄養 第6回：ミネラルの代謝と栄養 第7回：非栄養素、食物繊維・腸内菌叢と栄養 第8回：消化器、肝臓と栄養 第9回：腎臓、脂肪、筋肉・運動と栄養 第10回：免疫、脳、皮膚・美容と栄養 第11回：内分泌因子と栄養素による情報伝達機構 第12回：栄養による疾患予防1 メタボリックシンドローム、糖尿病と栄養 第13回：栄養による疾患予防2 高血圧、肥満、動脈硬化、血栓性疾患と栄養 第14回：栄養による疾患予防3 がん、骨粗鬆症、食物アレルギーと栄養 第15回：栄養による疾患予防4 寿命、ライフスタイルと栄養 定期試験			
テキスト 井上 順（編）、小田 裕昭（編）、加藤 久典（編）、関 泰一郎（編）、西村 直道（編）、細野 崇（編）（2024）『健康栄養学—健康科学としての栄養生理化学— 第3版（ISBN978-4-320-06198-9）』共立出版			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 小テスト（14%）、定期試験（60%）、課題（26%）で評価します。 毎回講義の始めに前回の講義内容についての小テストを実施します。課題はプレゼンテーション課題とレポート課題があります。追課題の提出を求めることがあります。			

授業科目名： 生薬学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山路誠一 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>自然界由来の動物・植物・鉱物(天然物)が、生薬として、サプリメント、スパイスとして、さらには医薬品、化学薬品やそれらの資源(リソース)等として利用できるようになることと、得られた製品と私たちの生活やスポーツとの関わり合いに関する基本的知識を修得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生薬学(Pharmacognosy)は薬学独自かつ薬学全分野の基礎学問で、医薬品としての取扱いだけでなく漢方薬、リード化合物、健康食品、サプリメントやドーピングでの使用禁忌に至るまで、注意点や取扱方法等について幅広く学ぶ。本講義では「実物の知」を重視するため、植物や生薬を用い、知識修得以外に五感を駆使した植物や生薬鑑別の技能を養うことで、天然物と医薬品についての総合的な知識の醸成を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生薬・薬用動植物を科学的に理解する(1)～科学的・歴史的見地(医史・薬史学)から 第2回：生薬・薬用動植物を科学的に理解する(2)～科学的見地から・植物分類学の基礎 第3回：生薬・薬用動植物を科学的に理解する(3)～科学的見地から・植物形態学の基礎 第4回：生薬・薬草の観察(実習形式) 第5回：生薬・薬用動植物を科学的に理解する(4)～天然物を知るための有機化学 第6回：生薬・薬用動植物を科学的に理解する(5)～アルカロイドの科学 第7回：生薬・薬用動植物を科学的に理解する(6)～ポリフェノールと配糖体、その他の科学 第8回：日本薬局方と一般用医薬品の中の生薬・漢方薬 第9回：法規制のある動植物と知っておきたい薬草・天然由来品とドーピング 第10回：生薬・薬用植物学各論(1)皮類生薬、茎・材類生薬 第11回：生薬・薬用植物学各論(2)根類生薬 第12回：生薬・薬用植物学各論(3)根茎類生薬 第13回：生薬・薬用植物学各論(4)葉類、花類、果実類生薬 第14回：生薬・薬用植物学各論(5)種子類、草類、菌類、樹脂類、動物・鉱物生薬 第15回：漢方薬とその実際(実習形式)</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>職業能力開発総合大学校編(2011)『改訂植物学概論』職業訓練教材研究会 木村孟淳、酒井英二、牧野利明(2023)『新訂生薬学(改訂第9版増補)』南江堂</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>難波恒雄、難波洋子(1996)『世界を変えた薬用植物』創元社</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期筆記試験および授業後の小テストによる客観評価(それぞれ20%(定期), 40%(小テスト))、講義中の自筆ノートの記述内容(20%)、およびレポート課題(20%)により評価する。 レポート課題は講義4回目前後で薬用植物園・資料館を見学した際の薬用植物の観察と資料館生薬とのつながり・関わり合いについてレポートにまとめる(見学は天候による)。</p>			

授業科目名： 地学講義	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：加藤明良 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や宇宙も含む地球を取り巻く環境について理解する。 地震、火山、気象などの自然災害についての基礎的知識を理解するとともに、防災や減災に向けた社会的取り組みについて調査し、社会活動との関係について考察する。 1. 2. を通して理科教員としての資質・能力を身に付ける 			
授業の概要			
地球や宇宙に関する基礎的知識について理解を深め、日常生活や社会との関連について自分なりの考えを深める活動を行う。そして、日本列島という世界的にも稀な地学的事象の宝庫に住む住人として自然災害の恵みとそれを防いだり、減らしたりする取り組みについて、各自がテーマを立て調査し発表する活動を行う。			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス、地学とは何か、地学を学ぶ意義やその活用</p> <p>第2回：惑星としての地球の姿、地球型惑星の特徴</p> <p>第3回：活動する地球、層構造とプレート運動</p> <p>第4回：活動する地球、火山の特徴と噴火による災害</p> <p>第5回：活動する地球、地震と津波の特徴と災害</p> <p>第6回：活動する地球、気象現象と災害</p> <p>第7回：活動する地球、大気と海洋（熱収支）</p> <p>第8回：宇宙と地球の歴史（ビックバンから現在までの歴史観）</p> <p>第9回：地球型生命の歴史（地球型生命の定義と進化の歴史）</p> <p>第10回：太陽系と系外惑星（太陽系、系外惑星の特徴と地球外生命の存在）</p> <p>第11回：恒星と銀河（恒星の進化と銀河の進化）</p> <p>第12回：地球環境の変化、温暖化、大気や海洋汚染</p> <p>第13回：自然災害の現状及び調査したいテーマを各自で設定</p> <p>第14回：テーマについての調査中間報告</p> <p>第15回：テーマに基づく発表と評価及び振り返り</p>			
テキスト			
授業ごとに適宜資料を配付			
参考書・参考資料等			
<p>高等学校「地学基礎」又は「地学」教科書（各社）</p> <p>『中学校学習指導要領理科編』（文部科学省）</p> <p>『高等学校学習指導要領理科編』（文部科学省）</p>			
学生に対する評価			
毎時の確認テスト（60％）。授業時の課題や発表内容（40％）。			

授業科目名： 地球環境と社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：村橋毅 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学		
授業のテーマ及び到達目標 人の健康維持と生活環境の保全に貢献できるようになるために、地球環境に関する基本的な知識を修得する。			
授業の概要 近年、人間は生活の豊かさと利便性を追及した結果、生産活動の拡大、急速な人口増加、地球規模の環境破壊が問題となり、今や人類の生存の基盤をも脅かすまでになっている。この講義では、地球環境および生態系の変化を解説する。すなわち、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、森林破壊、砂漠化等の原因および現状、生態系・人体への影響等について解説する。 また、これらの地球規模の環境問題に対する国際的協調の現状、エネルギー問題やライフスタイルの変化を含めた対応策を講義する。これらの講義を通して、地球環境の重要性および地球環境保護活動の必要性を認識させるとともに、身近な環境をテーマに考察、発表させる。			
授業計画 第1回：地球環境と生態系 第2回：地球環境問題(1)、オゾン層の破壊 第3回：地球環境問題(2)、地球温暖化 第4回：地球環境問題(3)、酸性雨と海洋汚染 第5回：地球環境問題(4)、森林の破壊と砂漠化 第6回：地球環境問題(5)、生物多様性の減少と有害廃棄物の越境移動 第7回：発表（学生グループA） 第8回：発表（学生グループB） 第9回：発表（学生グループC） 第10回：発表（学生グループD）			
テキスト 教員作成資料を配布する。			
参考書・参考資料等 Pharmaco-Health Sciences：基礎・予防・臨床（改訂第5版）、南江堂			
学生に対する評価 レポート(50%)、発表(50%)の合計。			

授業科目名： 生物学基礎実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 菌部幸枝、和田重雄 担当形態：オムニバス
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験		
授業のテーマ及び到達目標 生物学を観察・実験を通して学ぶ際の、意義、基本技能とその指導法を修得する。			
授業の概要 生物学実習では、中学校及び高等学校理科の学習に関連する内容について、教師の立場に立って指導する場面を想定して、学習の意義と指導法の留意点について見出す授業を展開します。			
授業計画 第1回：植物の観察とルーペや双眼実態顕微鏡の使い方（担当：菌部幸枝） 第2回：生物の細胞と光学顕微鏡の使い方（担当：菌部幸枝） 第3回：花粉管の伸長実験と観察（担当：菌部幸枝） 第4回：植物色素とペーパークロマトグラフィー（担当：菌部幸枝） 第5回：植物色素とpH（担当：菌部幸枝） 第6回：無脊椎動物（軟体動物）の解剖と観察（担当：菌部幸枝） 第7回：動物発光の実験（担当：菌部幸枝） 第8回：消化酵素の実験（担当：菌部幸枝） 第9回：DNA抽出実験（担当：菌部幸枝） 第10回：動物臓器の観察1 筋肉・骨格器官（担当：和田重雄） 第11回：動物臓器の観察2 内臓器官（担当：和田重雄） 第12回：遺伝のしくみとPCシミュレーション（担当：和田重雄） 第13回：学外施設（科学博物館）の見学（1）生命の進化と動物の多様性（担当：菌部幸枝・和田重雄） 第14回：学外施設（動植物園等）の見学（2）生命の進化と植物の多様性（担当：菌部幸枝・和田重雄） 第15回：補足とまとめ（担当：菌部幸枝・和田重雄）			
テキスト 担当教員が作成した資料を配付			
参考書・参考資料等 嶋田正和監修（2022年）『新課程 生物図録 視覚でとらえるフォトサイエンス』数研出版			
学生に対する評価 各回のレポート（80%）、実験態度（参加度合い、積極性）（20%）			

授業科目名： 化学基礎実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 和田重雄、長谷川登志夫 担当形態：複数
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験		
授業のテーマ及び到達目標 物質の学問である化学において、物質の特徴を実際に観察することと、その観察・計測する主義を習得することを目的とする。			
授業の概要 特に化学で注意しなければならない物質や実験器具の扱い方を学習したのち、種々の化学物質の特性を体感する実験を行っていく。各回レポートを作成し、各実験で習得した知識・技能を確認するとともに、それらを他人にわかりやすく伝えることも検討する。			
授業計画 第1回：実験ガイダンス、安全管理・危機管理（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第2回：実験器具の扱い方、炎色反応の観察（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第3回：混合物の分離に関する実験（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第4回：反応熱の計測（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第5回：アボガドロ数の算出（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第6回：溶液の調製・希釈（%濃度、モル濃度計算含む）（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第7回：化学反応の定量（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第8回：中和滴定（食酢中の酸の定量）（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第9回：酸塩基混合物、各種塩水溶液のpH計測（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第10回：コンピュータによる中和滴定曲線作成（pH算出）（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第11回：イオン化傾向、化学電池（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第12回：有機合成、サリチル酸メチル、各種エステル等の生成（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第13回：有機化合物（含糖類）の呈色反応（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第14回：アミノ酸・タンパク質の定性・定量分析（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第15回：補足とまとめ（担当：和田重雄、長谷川登志夫）			
テキスト 担当教員作成資料、化学同人編集部編「続 実験を安全に行うために第4版」化学同人。			
参考書・参考資料等 化学同人編集部編「実験を安全に行うために第8版」・「続続実験を安全に行うために失敗事例集」化学同人、山口和也、山本仁著「基礎化学実験安全オリエンテーション」東京化学同人			
学生に対する評価 各回のレポート（80%）、実験態度（参加度合い、積極性）（20%）			

授業科目名： 物理学・地学基礎実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 西尾信一、加藤明良 担当形態：オムニバス
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験		
授業のテーマ及び到達目標 物理学および地学のさまざまな分野に関する観察や実験を通して、自然を安全に探究する技能を身に付けるとともに、身の回りの物理現象や地学現象への関心を持ち、科学的な思考力を高める。とくに授業での利用を想定した観察・実験を体験し、指導計画・準備・実施・活用についての理解を深め、将来教員として必要な資質を養う。			
授業の概要 物理実験は特別な測定器具を用いるのではなく、PCやスマホ、簡単に入手できる材料などで行える実験を扱う。実験書の手順通りに作業をこなすのではなく、実験の目的や意義などを十分に検討して議論をすることを重視する。地学実験はスケールが大きく、実際に手に取って再現することが難しい地学現象について身の回りのモノを使った観察、実験を数多く行い、実体験を伴った理解を深める。また、実際に屋外に出かけ、地層や岩石、化石等の観察や天体観測を行うことで、自然観察の手法やポイントを知り自然の素晴らしさを体験する。			
授業計画 第1回：ガイダンス、安全指導、PC・スマホとインターネットの実験への活用（担当：西尾信一） 第2回：静力学および動力学に関する実験（担当：西尾信一） 第3回：圧力および熱とエネルギーに関する実験（担当：西尾信一） 第4回：波の性質に関する実験（担当：西尾信一） 第5回：音・光に関する実験（担当：西尾信一） 第6回：静電気および電流と電圧に関する実験（担当：西尾信一） 第7回：磁気および原子と放射線に関する実験（担当：西尾信一） 第8回：ガイダンス、地学実験の基礎・基本と安全指導（担当：加藤明良） 第9回：身近な岩石(堆積岩、火成岩、変成岩)の観察。（担当：加藤明良） 第10回：食品を使った地層や火山噴火モデルの作成と観察（担当：加藤明良） 第11回：野外巡検1（秩父盆地河岸段丘の観察）（担当：加藤明良） 第12回：野外巡検2（秩父小鹿野町ヨーバケと化石の観察）（担当：加藤明良） 第13回：気象観測と気象現象モデル実験（霧や雲の発生、陸海風モデル）（担当：加藤明良） 第14回：天体望遠鏡の使い方と太陽黒点観測（担当：加藤明良） 第15回：シミュレーションソフトMitakaの活用（担当：加藤明良）			
テキスト 初田真知子・伊地知国夫・矢田雅哉（2022）『身近な素材で実験する物理』丸善出版 配付資料			
参考書・参考資料等 高見寿・岡山物理アカデミー（2009）『教室でできる5分間ぶつり実験』日本評論社 高等学校「物理基礎」「地学基礎」「物理」「地学」教科書（各社） なお、各回とも事前に指示した身の回りの物品等を持参してもらう場合がある。			
学生に対する評価 各観察・実験レポート（100%）			

授業科目名： 公衆衛生学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：村橋毅 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた 内容に係る科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>人々の「健康づくり」に貢献することを目標として、健康と社会・環境に関する基本的知識を修得するとともに、社会生活にとって必要不可欠である健康の維持と増進、疾病の予防、健康管理、環境保健、健康教育、衛生行政、医療制度などの公衆衛生に関する知識を体系的に学習し、総合的に考察できるように理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>公衆衛生学は個人あるいは集団社会の組織的な活動を通じて、健康増進と疾病の予防を考え、社会に寄与することを目的とした学問である。本講義では、人々の「健康づくり」に貢献するために、公衆衛生の基本理念、保健統計、疫学、健康と疾病予防、環境保健、衛生行政、母子保健、労働衛生、学校保健、高齢者医療及び介護、保健医療制度などに関する理解を深め、基本的知識を修得できるように解説する。また、環境汚染問題、社会の疾病構造の変化、生活習慣の現状と対策、医療の現状と課題、少子高齢社会の実態、精神疾患による健康の破綻、貧困と健康など現代社会で起こっている問題を広く取り上げ、その問題を取り巻く社会情勢について考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：大気汚染 第2回：室内環境 第3回：上水道と下水道 第4回：水質汚濁 第5回：1～4回までの総合的な振り返り、到達度確認テスト 第6回：栄養素 第7回：食品の腐敗 第8回：微生物による食中毒 第9回：自然毒による食中毒 第10回：化学物質による食中毒 第11回：6～10回までの総合的な振り返り、到達度確認テスト 第12回：保健統計、疫学 第13回：感染症の予防 第14回：生活習慣病の予防 第15回：12～14回までの総合的な振り返り、到達度確認テスト</p>			
テキスト 適宜配付プリントを用いる。			
参考書・参考資料等 Pharmaco-Health Sciences：基礎・予防・臨床（改訂第5版）、南江堂			
<p>学生に対する評価</p> <p>試験(50%)、レポート(50%)。</p>			

授業科目名： 理科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：和田重雄・加藤明良 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校・高等学校学習指導要領理科の目標や内容を理解し、基本的な学習指導や学習評価について理解する。その上で、学習指導案を作成する準備をする。			
授業の概要 まず、理科教育の歴史や国内外の学力調査の視点から、我が国の理科教育の現状と課題を考えることによって、中学校・高等学校学習指導要領理科の目標や内容を本質的に理解する。次に、基本的な学習指導や学習評価について学び、学習指導案を作成する準備をする。最後に、中学校・高等学校理科の学習内容を詳しくみつめ直し、教材研究の重要性を理解した上で、学習指導案を充実させる。			
授業計画 第1回：理科教育の変遷と現状（担当：和田重雄） 第2回：国内外の学力調査と教育の課題（担当：和田重雄） 第3回：中学校学習指導要領理科の概要（担当：加藤明良） 第4回：高等学校学習指導要領理科の概要（担当：和田重雄） 第5回：「指導と評価の一体化」のための学習評価（担当：加藤明良） 第6回：情報通信技術を活用した理科教育（担当：和田重雄） 第7回：理科教育における観察・実験についての教材研究（担当：加藤明良） 第8回：学習指導案の概要（担当：加藤明良） 第9回：中学校理科の内容と教材研究（「エネルギー」領域・「粒子」領域）（担当：加藤明良） 第10回：中学校理科の内容と教材研究（「生命」領域・「地球」領域）（担当：加藤明良） 第11回：高等学校理科の内容と教材研究（化学）（担当：和田重雄） 第12回：高等学校理科の内容と教材研究（物理・生物）（担当：和田重雄） 第13回：高等学校理科の内容と教材研究（地学・科学と人間生活）（担当：加藤明良） 第14回：理科教材研究の学生発表 第1グループ（担当：和田重雄、加藤明良） 第15回：理科教材研究の学生発表 第2グループ（担当：和田重雄、加藤明良）			
テキスト 「中学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省(学校図書)、「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」文部科学省(実教出版)、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社）、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社） 配付資料			
参考書・参考資料等 中学校・高等学校で使用した理科の教科書等			
学生に対する評価 授業時に提示する課題（70%）、教材研究発表（30%）で評価する。			

授業科目名： 理科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 和田重雄、加藤明良 担当形態：オムニバス
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 基礎的な学習指導理論や情報通信技術の効果的な活用を理解した上で、学習指導案を作成する。その上で模擬授業を実施し、振り返りを通して授業改善の視点を身に付ける。			
授業の概要 まず、基礎的な学習指導理論や情報通信技術の効果的な活用の重要性を理解した上で、主に中学校理科の範囲の教材研究を行い、学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。情報通信技術を活用した授業についても同様に模擬授業を実施する。模擬授業の振り返りでは、自身や他の受講生も授業の評価とともに、授業改善の視点や生涯にわたり授業改善に取り組んでいこうとする姿勢を身に付ける。また、生徒に対する学習評価についても検討する。			
授業計画 第1回：学習指導案作成の概説（担当：加藤明良） 第2回：情報通信技術を活用、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業例（担当：加藤明良） 第3回：「指導と評価の一体化」を目指した学習指導案の作成法（担当：加藤明良） 第4回：中学校理科「エネルギー」・「粒子」領域の教材研究（担当：加藤明良） 第5回：中学校理科「エネルギー」・「粒子」領域の指導案作成（担当：加藤明良） 第7回：中学校理科「生命」・「地球」領域の教材研究（担当：加藤明良） 第8回：中学校理科「生命」・「地球」領域の指導案作成（担当：加藤明良） 第9回：中学校理科範囲の模擬授業の実施 第1グループ（担当：加藤明良） 第10回：中学校理科範囲の模擬授業の実施 第2グループ（担当：加藤明良） 第11回：中学校理科の情報通信技術を活用した教材研究（担当：和田重雄） 第12回：中学校理科の情報通信技術を活用した指導案作成（担当：和田重雄） 第13回：中学校理科の情報通信技術を活用した模擬授業の実施と振り返り（担当：和田重雄） 第14回：中学校理科での探究的な学習を目指す教材研究と指導案作成（担当：和田重雄） 第15回：まとめ；中学校理科の教材研究、授業設計、指導案作成、学習評価（担当：加藤明良）			
テキスト 「中学校学習指導要領解説 理科編 理数編」文部科学省(学校図書) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社）			
配付資料 参考書・参考資料等 「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」文部科学省(実教出版) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社） 中学校・高等学校で使用した理科の教科書等			
学生に対する評価 授業時に提示する課題、作成した指導案、開発した教材、模擬授業の教員による評価（60%）。開発した教材、模擬授業の受講生による相互評価（20%）。本科目総括レポート（20%）。			

授業科目名： 理科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：和田重雄 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 背景となる学問領域との関係や発展的な学習内容、実践研究の動向を理解した上で学習指導案を作成する。模擬授業の実施、振り返りを通して授業改善の視点を身に付け、実践的な指導力を育む。			
授業の概要 高等学校の理科の科目；「化学」、「生物」、「物理」・「地学」において、観察・実験の導入、情報通信技術の活用を伴う教材研究、指導案の作成、模擬授業を実施する。模擬授業の振り返りを通じて、授業改善の視点を確認していく。さらに、「科学と人間生活」の指導案を作成する。高等学校理科の全貌がつかめたところ、発展的な学習内容を取り入れた授業の実践研究も行い、幅広い視野に立って高等学校の理科の授業設計の向上取り組める能力を高める。			
授業計画 第1回：理科教育における観察・実験・発展的な学習、情報通信技術の活用 第2回：観察・実験を取り入れた高等学校理科（化学）の教材研究 第3回：観察・実験を取り入れた高等学校理科（化学）の指導案作成 第4回：観察・実験を取り入れた高等学校理科（生物）の教材研究 第5回：観察・実験を取り入れた高等学校理科（生物）の指導案作成 第6回：観察・実験を取り入れた高等学校理科（科学と人間生活）の教材研究と指導案作成 第7回：観察・実験を取り入れた高等学校理科範囲の模擬授業実施 第1グループ 第8回：観察・実験を取り入れた高等学校理科範囲の模擬授業実施 第2グループ 第9回：模擬授業の振り返りと学習指導案の再検討 第10回：情報通信技術を活用した高等学校理科（物理・地学）の教材研究 第11回：情報通信技術を活用した高等学校理科（物理・地学）の指導案作成 第12回：情報通信技術を活用した高等学校理科の模擬授業実施と振り返り 第1グループ 第13回：情報通信技術を活用した高等学校理科の模擬授業実施と振り返り 第2グループ 第14回：薬学の内容を取り入れた高等学校理科の授業の実践研究 第15回：発展的な学習内容を含む高等学校理科の教材研究と指導案作成			
テキスト 「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」文部科学省(実教出版) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社）			
配付資料 参考書・参考資料等 「中学校学習指導要領解説 理科編 理数編」文部科学省(学校図書) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社） 中学校・高等学校で使用した理科の教科書等			
学生に対する評価 授業時に提示する課題、作成した指導案、開発した教材、模擬授業の教員による評価（70%）。開発した教材、模擬授業の受講生による相互評価（30%）。			

授業科目名： 理科教育法IV	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：和田重雄、加藤明良 担当形態：複数
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 生徒が主体的に学習できる観察・実験・探究活動に特化した教材開発、学習指導案を作成する。模擬授業の実施、振り返りを通して、観察・実験・探究活動のプロセスを学ぶ。			
授業の概要 まず、観察・実験・探究活動について詳しく学び、その上で教材研究した後、オリジナルの観察・実験教材を開発する。それを利用した学習指導案を作成し、模擬授業の実施し、その振り返りを通して、観察・実験を伴う授業の学習評価、授業実践の視点を確認する。その後、探究活動という視点での授業実践に必要な技法を学習し、探究能力を育む授業運営の方法を学ぶ。			
授業計画 第1回：理科教育における主体的な観察・実験・探究活動（担当：和田重雄、加藤明良） 第2回：理科教育における情報通信技術を活用、実験教材の開発（担当：和田重雄、加藤明良） 第2回：観察・実験・探究活動における安全教育と安全管理（担当：和田重雄、加藤明良） 第3回：観察・実験・探究活動における授業計画、課題と仮説の設定、学習評価（担当：和田重雄、加藤明良） 第4回：中学校、高等学校理科で活用可能な観察・実験教材の研究（担当：和田重雄、加藤明良） 第5回：中学校、高等学校理科で活用可能な観察・実験教材の開発（担当：和田重雄、加藤明良） 第6回：中学校、高等学校理科で活用可能な観察・実験教材の開発と指導案作成（担当：和田重雄、加藤明良） 第7回：中学校、高等学校理科で活用可能な観察・実験教材を利用した模擬授業実践 第1グループ（担当：和田重雄、加藤明良） 第8回：中学校、高等学校理科で活用可能な観察・実験教材を利用した模擬授業実践 第2グループ（担当：和田重雄、加藤明良） 第9回：授業実践の振り返り、学習評価方法の検討（担当：和田重雄、加藤明良） 第10回：理科における探究活動の実践研究（担当：和田重雄、加藤明良） 第11回：理科における探究活動の授業計画と課題設定（担当：和田重雄、加藤明良） 第12回：理科における探究活動の実験計画、実験結果、考察（担当：和田重雄、加藤明良） 第13回：理科における探究活動のレポート作成、プレゼンテーション（担当：和田重雄、加藤明良） 第14回：理科における探究活動の探究プロセスの繰り返しを重視した課題設定（担当：和田重雄、加藤明良） 第15回：理科における探究活動の学習評価と授業運営（担当：和田重雄、加藤明良）			
テキスト 「中学校学習指導要領解説 理科編 理数編」文部科学省(学校図書) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社） 「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」文部科学省(実教出版) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社）			
参考書・参考資料等 「中学校学習指導要領解説 理科編 理数編」文部科学省(学校図書) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社） 中学校・高等学校で使用した理科の教科書等			
学生に対する評価 授業時に提示する課題、作成した指導案、開発した教材、模擬授業の教員による評価（70%）。 開発した教材、模擬授業の受講生による相互評価（30%）。			

授業科目名： 道徳教育	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 渡辺雅之、大井はるえ 担当形態：複数・オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校） 大学が独自に設定する科目（高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・道徳の理論及び指導法（中学校）		
授業のテーマ及び到達目標 ・道徳教育の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解できる。 ・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解できる。			
授業の概要 道徳教育の意義や法的位置づけをふまえて、道徳教育について学習指導要領に示された目標や内容、指導と評価等を理解し、生徒の発達過程に応じた道徳上の諸課題について考察する。また道徳教育の歴史的変遷について理解を深め、現代社会における道徳的な諸課題を見出し、学校や日常での身近な課題として「いじめ」や「情報モラル」等にも着目して、グループ討議も経て考察する。その上で、中学校の道徳の授業づくりを体験的に学習し、学習指導案を作成して模擬授業を行い、振り返りを通じて授業改善を行う一連のサイクルに即して学習する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 道徳教育の目標と内容（担当：渡辺雅之・大井はるえ） 第2回：道徳の理論①道徳性の発達（担当：大井はるえ） 第3回：道徳の理論②ケアの倫理（担当：大井はるえ） 第4回：道徳の実践事例 哲学対話の活用（担当：大井はるえ） 第5回：道徳の理論③グローバル・シチズンシップ（担当：大井はるえ） 第6回：道徳の理論④市民性の教育（担当：大井はるえ） 第7回：道徳の理論⑤学校教育における道徳教育（担当：大井はるえ） 第8回：道徳の実践事例 読み物教材の活用（担当：渡辺雅之） 第9回：道徳の授業づくり①目標・教材・方法（担当：渡辺雅之） 第10回：道徳の授業づくり②学習指導案の作成方法（担当：渡辺雅之） 第11回：道徳の学習指導案の作成（自分自身、人との関わり）（担当：渡辺雅之） 第12回：道徳の学習指導案の作成（集団や社会、生命や自然、崇高なものとの関わり）（担当：渡辺雅之） 第13回：道徳の模擬授業の実施と評価（自分自身、人との関わり）（担当：渡辺雅之） 第14回：道徳の模擬授業の実施と評価（集団や社会、生命や自然、崇高なものとの関わり）（担当：渡辺雅之） 第15回：模擬授業の振り返りと授業改善（担当：渡辺雅之）			
テキスト 『中学校学習指導要領』（文部科学省平成29年告示），『中学校学習指導要領解説編 特別の教科 道徳編』（文部科学省平成29年告示）， ほか毎回配付資料を用いる。			
参考書・参考資料等 事前・事後学修のために随時紹介する。			
学生に対する評価 授業時の課題遂行や発表内容（60%）と提出課題（40%）により総合的に評価する。			

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：杉山雅宏 担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】日本国憲法の基本的な原理や概念を判例や時事問題を紹介しつつ説明し、教育における憲法について理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国憲法の条文に刻まれた歴史に思いをはせ、現在の諸問題にも関心を持つことができる。 2. 日本国憲法の基本原理や構成について説明することができる。 3. 基本的人権の種類や内容について説明することができる。 4. 憲法の基本的な論点について、主体的に考えることができるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>大学において教職課程を履修する学生に対し、憲法の規定する人権と統治機構の基本を押さえながら、さまざまな現実の憲法問題に法的思考力を持たせることができるような講義を展開する。具体的な判例や、実際に生じている事件などを題材に学び、受講生が日本国憲法の基礎的な知識を身につけ、その知識を具体的な問題を考える際に使いこなせるようにしたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：日本国憲法の成立と基本原理（憲法の思想と歴史）</p> <p>第2回：日本国憲法における教育権論争について</p> <p>第3回：個人の尊厳と基本的人権のスタイルについて</p> <p>第4回：学校にいる人（教師・子ども）の権利について</p> <p>第5回：政教分離とは何か：宗教と公立学校。</p> <p>第6回：プライバシーとは何か：教育情報の本人開示と公開について。</p> <p>第7回：教育を受ける権利について：1人ひとりにふさわしい教育の確保</p> <p>第8回：子どもの自己決定権について</p> <p>第9回：経済的自由権、生存権、労働権、労働基本権について</p> <p>第10回：国民主権と参政権：政治の主役は誰なのか</p> <p>第11回：政治的中立性とは</p> <p>第12回：教育を枠づける国の統治の仕組みについて（国会・内閣・裁判所）</p> <p>第13回：地方自治：教育委員会は何をしているところか</p> <p>第14回：平和主義について</p> <p>第15回：日本国憲法のまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>斎藤一久・城野一憲編『教職のための憲法』ミネルヴァ書房 ISBN：978-4623089352</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>毎回の講義で必要な資料は適宜配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の授業における小レポート（80%）、課題レポート（20%）。</p>			

授業科目名： 球技系種目 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 松永修司、縣右門、木村浩吉 担当形態：複数・オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 健康の概念を自身が運動を通じて実感し、ヒトの健康増進に貢献するための素養を養う。 ・ 運動を通じてコミュニケーション能力を醸成する。 ・ サッカーの基本的な指導ができる人材を養成する。			
授業の概要 本授業ではサッカーを行う。講習回ではグループでトレーニング計画を立て、実践回で実際にそのトレーニングを実践しながらゲームで授業を締めくくる。その際に基本的な技術だけでなく、個人、グループ、チーム戦術に関する振り返りも行う。授業に対しては、積極的に取り組み、仲間と楽しみ協力しながら参加することで健康増進やコミュニケーション能力醸成を目指す。			
授業計画 第 1 回：「サッカー」について（担当：木村浩吉、縣右門） 「サッカー」の特性及び授業展開計画等のオリエンテーション 第 2 回：ゲームとコーディネーション（担当：木村浩吉、縣右門） 「サッカー」のゲームとコーディネーションについて学ぶ 第 3 回：観る（担当：木村浩吉、縣右門） グループによる技術の習得及び誰もが楽しく、協力し行えるレクリエーション的運動方法の取得・実践ができていないか指導者目線で観る。 第 4 回：シュート（担当：木村浩吉、縣右門） シュートについての技術を学ぶ 第 5 回：攻撃（ポゼッション）（担当：木村浩吉、縣右門） 攻撃的ポジションについての技術や戦術について学ぶ 第 6 回：パス&コントロール（担当：木村浩吉、縣右門） ボールコントロールに関する技術の習得 第 7 回：指導実践①（担当：木村浩吉、縣右門） グループによる技術の習得及び誰もが楽しく、協力し行えるレクリエーション的運動方法を取得する 第 8 回：指導実践②（担当：木村浩吉、松永修司） グループ内で技術修得の確認を行い、レクリエーション的運動方法を実践する 第 9 回：指導実践③（担当：木村浩吉、松永修司） グループによる試合形式の実践及び試合を通じてルールを理解と審判法を学ぶ。 第 10 回：指導実践・実技振り返り①（担当：木村浩吉、松永修司） グループによる試合形式の実践及び試合を通じて指導者法、運営法、協力の精神と社会性の反映を確認する 第 11 回：指導実践・実技振り返り②（担当：木村浩吉、松永修司） グループによる試合形式の実践を振り返り、ディスカッションを行う 第 12 回：発育発達（担当：木村浩吉、松永修司） こどもの発育発達について学ぶ 第 13 回：メディカルの知識（担当：木村浩吉、松永修司） 怪我や応急処置などの医学的知識を学ぶ 第 14 回：コーチング法 I（担当：木村浩吉、松永修司） サッカーのコーチングスキルについて理論的に学ぶ 第 15 回：指導者の役割 I（担当：木村浩吉、松永修司） サッカーの指導者の役割について学ぶ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 「理論と実践で学ぶサッカーコーチング」中山雅雄 編著、大修館書店の他、授業内で適宜紹介			
学生に対する評価 授業態度（20%）、技術（80%）で評価する。			

授業科目名： 球技系種目Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松永修司、縣右門、木村浩吉 担当形態： 複数・オムニバス
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
授業のテーマ及び到達目標 ・健康の概念を自身が運動を通じて実感し、ヒトの健康増進に貢献するための素養を養う。 ・運動を通じてコミュニケーション能力を醸成する。 ・サッカーの基本的な指導ができる人材を養成する。			
授業の概要 本授業ではサッカーを行う。サッカーの基礎技術（キック、ドリブル、コントロール）を発展させ、ゲームの中での技術の発揮の仕方を習得し、主体的にサッカーのゲームを楽しむことができるようになることを授業の目的とする。また、本授業では特に指導力を身につけるためゲームやトレーニングの進行の中でコーチングの機会を設けている。			
授業計画 第1回：「サッカー」について（担当：木村浩吉、縣右門） 「サッカー」の特性及び授業展開計画等のオリエンテーション 第2回：ゲームとコーディネーション（担当：木村浩吉、縣右門） 「サッカー」のゲームとコーディネーションについて学ぶ 第3回：観る（担当：木村浩吉、縣右門） グループによる技術の習得及び誰もが楽しく、協力し行えるレクリエーション的運動方法の取得・実践ができていくか指導者目線で観る。 第4回：シュート（担当：木村浩吉、縣右門） シュートについての技術を学ぶ 第5回：攻撃（ポゼッション）（担当：木村浩吉、縣右門） 攻撃的ポジションについての技術や戦術について学ぶ 第6回：パス&コントロール（担当：木村浩吉、縣右門） ボールコントロールに関する技術の習得 第7回：指導実践①（担当：木村浩吉、縣右門） グループによる技術の習得及び誰もが楽しく、協力し行えるレクリエーション的運動方法を取得する 第8回：指導実践②（担当：木村浩吉、松永修司） グループ内で技術修得の確認を行い、レクリエーション的運動方法を実践する。 第9回：指導実践③（担当：木村浩吉、松永修司） グループによる試合形式の実践及び試合を通じてルールを理解と審判法を学ぶ。 第10回：指導実践・実技振り返り①（担当：木村浩吉、松永修司） グループによる試合形式の実践及び試合を通じて指導者法、運営法、協力の精神と社会性の反映を確認する 第11回：指導実践・実技振り返り②（担当：木村浩吉、松永修司） グループによる試合形式の実践を振り返り、ディスカッションを行う。 第12回：発育発達（担当：木村浩吉、松永修司） こどもの発育発達について学ぶ 第13回：メディカルの知識（担当：木村浩吉、松永修司） 怪我や応急処置などの医学的知識を学ぶ 第14回：コーチング法Ⅱ（担当：木村浩吉、松永修司） サッカーのコーチングスキルについて理論的に学ぶ 第15回：指導者の役割Ⅱ（担当：木村浩吉、松永修司） サッカーの指導者の役割について学ぶ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 「サッカー指導者は伝え方で決まる」岩瀬健（著）amazon の他、授業内で適宜紹介			
学生に対する評価 授業態度（20%）、技術（80%）で評価する。			

授業科目名： 夏季集中体育実技	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 縣 右門、松永修司 担当形態：複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 具体的な資格取得の目標を提示し、生徒自身が目的意識、やる気を持って授業に参加できるよう心掛ける。			
2. キャンプインストラクターの資格取得を目標に学習する。			
授業の概要			
日本キャンプ協会が定めるカリキュラムに従って4日間のキャンプ実習を行う。事前講習会では特に安全管理を中心に自然環境やその変化を学び、実際にキャンプ計画を立てる。実際の実習プログラムでは特に共同生活や協力体験といった要素によって、参加学生の自己概念や社会性などの能力が醸成するよう主体的かつ能動的な学びを目指していく。			
授業計画			
第1回 ガイダンス (担当：縣右門、松永修司) 授業計画の説明、資格取得についてのガイダンスに参加する。			
第2回：自然環境の魅力 (担当：縣右門、松永修司) 現代社会に求められる自然環境の魅力を理解する。			
第3回：キャンプの安全管理 (担当：縣右門、松永修司) 野外での危機管理について知識と実践力を身に付ける。			
第4回：アイスブレイク (担当：縣右門、松永修司) グループでの仲間づくりを行い、リーダーシップを醸成する。			
第5回：コミュニケーション技法Ⅰ (担当：縣右門、松永修司) イニシアティブゲームを通じてグループ内コミュニケーションの円滑化をはかる。			
第6回：コミュニケーション技法Ⅱ (担当：縣右門、松永修司) トラストフォールなどを通じてグループ内での信頼関係を構築する。			
第7回：テントの設営方法 (担当：縣右門、松永修司) 特に環境に応じたテント設営方法に注意し、その方法を身に付ける。			
第8回：野外炊事と実践 (担当：縣右門、松永修司) 自然環境で着火と炊事の方法を実践しながら学ぶ。			
第9回：キャンプファイヤーの技術と実践 (担当：縣右門、松永修司) 集団レクリエーションの計画を立案し、計画に沿って実践する。			
第10回：振り返りとまとめ (担当：縣右門、松永修司) ディスカッションを通じて自他の振り返りを行い、意見を参考に学習課題の確認を行う。			
テキスト			
キャンプ指導者入門 第5版 日本キャンプ協会			
参考書・参考資料等			
授業内で適宜紹介する。			
学生に対する評価			
課題レポート (20%)、技術評価 (80%) で評価する。			

授業科目名： 冬季集中体育実技	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 縣右門、松永修司、今井菜美 担当形態：複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
授業のテーマ及び到達目標 この授業では、「未経験者から経験者までそのレベルに必要な板や身体の操作といった技術」、「より楽しくウィンタースポーツをするため必要な知識」の習得を目指すことを目的として実施する。そして、ある程度思い通りにスキーやスノーボードをコントロールすることができ、生涯スポーツへの導入となることを到達目標とする。			
授業の概要 3日間のスキーあるいはスノーボード実習を行う。事前講習では自然環境の中での実践的な活動と、野外教育に関する基本的な知識を学ぶ。実際の実習プログラムでは初心者から上級者までを対象としてスキーあるいはスノーボードの滑走技術を習得する。またその際に集団宿泊活動をとおして、集団内での規律ある生活を身につけると共に、コミュニケーション能力を向上させる。			
授業計画 第1回 ガイダンス（担当：縣右門、松永修司、今井菜美） スキーあるいはスノーボードの特性及び授業展開計画等のオリエンテーションに参加する 第2回：学科講習（担当：縣右門、松永修司、今井菜美） 基礎スキーあるいはスノーボードの技術体系と指導演法，安全管理，傷害とその予防，競技スキーあるいはスノーボードの概要を理解する 第3回：スキーまたはスノーボード講習①（担当：縣右門、松永修司、今井菜美） 種目および技術別のグループに分かれ、基礎または基本技術を醸成する。 第4回：スキーまたはスノーボード講習②（担当：縣右門、松永修司、今井菜美） 種目および技術別のグループに分かれ、基礎または基本技術の到達状況を確認しあう。 第5回：スキーまたはスノーボード講習③（担当：縣右門、松永修司、今井菜美） 種目および技術別のグループに分かれ、初級技術を醸成する。 第6回：スキーまたはスノーボード講習④（担当：縣右門、松永修司、今井菜美） 種目および技術別のグループに分かれ、初級技術の到達状況を確認しあう。 第7回：スキーまたはスノーボード講習⑤（担当：縣右門、松永修司、今井菜美） 種目および技術別のグループに分かれ、中上級技術を醸成する。 第8回：スキーまたはスノーボード講習⑥（担当：縣右門、松永修司、今井菜美） 種目および技術別のグループに分かれ、中上級技術の到達状況を確認しあう。 第9回：スキーまたはスノーボード講習⑦（担当：縣右門、松永修司、今井菜美） 種目および技術別のグループに分かれて、実技練習のまとめを行う。 第10回：実技テスト・閉講式（担当：縣右門、松永修司、今井菜美） 評価基準表に基づいた実技評価を行い、実習を通じた技術の向上度を確認する。また、実習全体を振り返り、レポートを作成する。			
テキスト 「スキー・スノーボード実習テキスト みんなで上達しよう」竹村幸則・杉崎豊一 ノースランド出版			
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介する。			
学生に対する評価 課題レポート（20%）、技術評価（80%）で評価する。			

授業科目名： 入門英会話	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：B. スミス 担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業は日常的に登場する会話のテーマを題材に英語を学習することを目標としています。当科目は英会話の授業であることから会話の練習を主軸に置きますが、同時に授業内で登場する様々なテーマに関わるボキャブラリーと文法（時制や品詞）の習得にも重点を置いています。それ故に履修者はこの授業を通してリスニング力とスピーキング力の向上に加えて総合的な英語力の向上を得ることを目標としています。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業ではコミュニケーションを主軸に日常会話で頻出するスポーツや趣味などを含むさまざまなテーマについて自然な英語表現を身につける演習を行なっていきます。当科目は「習慣」や「ルーティーン」、「現在の状況」など、「今」に焦点を当てた英語表現の学習に焦点を当てています。当科目はコミュニケーションに重点をおいている授業である為、受動的な個人学習ではなく、ペア/グループワーク、ロールプレイ、ディクテーションなどのピアラーニングを中心に英会話の実践的な練習に重点をおいています。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：当科目の概要、会話のアクティビティー 第2回：「職業」に関わるボキャブラリーと表現 第3回：「現在形」の形 第4回：「習慣」に関わる表現 第5回：「家族と親戚」に関わるボキャブラリー、「現在進行形」の形 第6回：「現在形」と「現在進行形」の（意味、用法、形の）比較 第7回：小テスト、「スポーツ」に関わるボキャブラリーと表現 第8回：「頻度を表す副詞」 第9回：「How...?」を用いた疑問文 第10回：復習</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor (2017) 『Interchange Level 1 Student's Book with Online Self-Study』 Cambridge University Press</p>			
<p>参考書・参考資料等 なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>小テスト（20%），定期試験（80%）</p>			

授業科目名： 実践英会話	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：B. スミス 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業は日常的に登場する会話のテーマを題材に英語を学習することを目標としています。当科目は英会話の授業であることから会話の練習を主軸に置きますが、同時に授業内で登場する様々なテーマに関わるボキャブラリーと文法（時制や品詞）の習得にも重点を置いています。前期科目の入門英会話の習慣や現在の状況に関して表現することに重点を置いていたのに対して、当科目では過去の出来事や経験についての表現を重点的に学習していきます。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>当科目では前期科目の「入門英会話」の授業形式を踏襲しつつさらに多くの日常会話のテーマに関わる表現を学習していきます。具体的には、前期科目の「入門英会話」では「今」に関する表現の学習に焦点を絞っていたのに対して、等科目ではその上「過去」に関わる表現を学習していきます。当科目はコミュニケーションに重点をおいている授業である為、受動的な個人学習ではなく、ペア/グループワーク、ロールプレイ、ディクテーションなどのピアラーニングを中心に英会話の実践的な練習に重点をおいています。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：当科目の概要、会話のアクティビティー</p> <p>第2回：「過去」に関わる表現</p> <p>第3回：「過去形」の形</p> <p>第4回：「過去形の be 動詞」を用いた表現</p> <p>第5回：小テスト、「現在完了形」の形</p> <p>第6回：「過去形」と「現在完了形」の（意味、用法、形の）比較</p> <p>第7回：「For」と「Since」を用いた表現</p> <p>第8回：「お店」などに関わるボキャブラリー、「前置詞」</p> <p>第9回：「可算名詞」と「不可算名詞」</p> <p>第10回：復習</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor (2017) 『Interchange Level 1 Student's Book with Online Self-Study』 Cambridge University Press</p>			
<p>参考書・参考資料等 なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>小テスト（20%）、定期試験（80%）</p>			

授業科目名： 情報リテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村井保之 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>情報化社会で必要となる情報機器やインターネットに関する、ハードウェアやソフトウェアの知識、安全かつ有効に活用する知識と方法、情報倫理とルールに関する知識を修得する。なお、この科目は数理・データサイエンス・AI プログラム(リテラシーレベル) の対象科目です。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>大学生活や将来社会人として必要なIT の基礎知識の習得を目的とする。身近なSNS などのコミュニケーションツールから、ネットの脅威やウイルスなどのセキュリティ、著作権や情報倫理、生活の中で使われる情報システム、これらを構成する基本的な技術、ネットワークやインターネットに関する技術、コンピュータや各種情報機器のハードウェアに関する技術、それらを動作させるためのソフトウェアに関する基本的な技術について、講義と演習を中心に学生が主体的に取り組める授業とする。国家試験「IT パスポート」にも対応する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：インターネットの利用 第2回：情報倫理とルール 第3回：情報化社会 第4回：情報やメディアに関する技術 (1) 二進数、十進数、二進数を相互に変換、ビットやバイトなどのデータ量 第5回：情報やメディアに関する技術 (2) 標本化と量子化、エラー検出と訂正、バーコード 第6回：ネットワークの技術 (1) TCP/IP とDNS、プロトコル、ファイアウォール 第7回：ネットワークの技術 (2) HTML とスクリプト、Web サーバとHTTP、Web のセキュリティ 第8回：ネットワークの技術 (3) LAN とWiFi、携帯電話システム 第9回：ハードウェアの技術 (1) パソコンの構成要素・OS 第10回：ハードウェアの技術 (2) イメージングデバイスと画素数・解像度、入出力装置 第11回：ハードウェアの技術 (3) インターフェース、不正コピー防止 第12回：ソフトウェアの技術 (1) OS、マルチタスクと仮想化技術、プログラミングとソフトウェアの開発方法 第13回：ソフトウェアの技術 (2) アルゴリズムと計算量、ユーザインタフェース 第14回：ソフトウェアの技術 (3) データベースとデータウェアハウス、クラウドコンピューティング 第15回：まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>『キーワードで学ぶ最新情報トピックス2023』 日経BP 『改訂4 版情報モラル&情報セキュリティ (978-4-938927-52-3) 』 富士通エフ・オー・エム (FOM 出版) 授業ではオンラインの動画等を利用しますのでPC やタブレットなどが必要です。</p>			
<p>参考書・参考資料等 なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業中に実施する課題で (100%) 評価する。</p>			

授業科目名： 教育基礎論（原理・教育史）	教員の免許状取得の ための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺崎恵子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標 共生社会において教育の理念を地域社会と協働してどう実現していくか考え合う。そこにこの授業の主題を置く。「子どもの権利条約」の4原則と「こども基本法」の基本理念にもとづく教育の原理を、教育用語・概念の内容理解を通じて把握する。近代学校教育制度の成立と展開過程を支えている教育の思想を、その歴史的・社会的・文化的な背景に目を向けて理解する。情報社会にあって生きる力を育む教育のあり方の熟議に向けて、学校と地域の連携による学び合いの場づくりの取り組みを把握する。			
授業の概要 「人は教育を通じて人間になる」と言われる。教育に関する様々な議論は、学校教育をめぐる課題を提起しながら、その内実として人間の生き方を問い続けている。教育（education）の原義「生を養い育てる」や学校（school）の原義「閑暇、自由時間」等をふまえて、子どもと大人が共に生きて育つ生活文化としての教育の諸事象を捉える。異なる世代の、異なる文化の人と人との関わり合う教育の課題を共有して考えていくには、教育の理念と基本的な概念の熟慮と理解が欠かせない。古今の教育論の歴史的・社会的背景に関心に向けて思想史や文化史の知見を参照しながら各回の内容理解を深め、自らの教育観を涵養する。			
授業計画 第1回：教育の原義（1）〈教〉の生活世界…明治期学校教育制度成立過程のなかで 第2回：教育の原義（2）〈育〉の生活世界…誕生に始まる子どもと大人の関係 第3回：ライフサイクル論と発達観…異世代間の交流と子ども期への関心 第4回：通過儀礼と異校種間連携・接続…次世代への文化的継承のかたち 第5回：自学から教授への転回…遍歴学生の生き方に学ぶ 第6回：教育主体と学習主体の相互的關係構造（1）積極性 第7回：教育主体と学習主体の相互的關係構造（2）消極性 第8回：観察力と学習活動…興味・関心の〈三項関係〉と〈概念くだけ〉 第9回：感性と知性…〈子どもの理性〉と共通感覚、そして直観教授 第10回：教養と人間形成…リテラシーと自己認識、そして自己実現へ 第11回：近代学校教育の構図（1）教材・教具と生活経験 第12回：近代学校教育の構図（2）学習集団と競争心 第13回：近代学校教育の構図（3）学校の時間と生活の時間 第14回：個人の学びと協同の学び…地域社会への参加と居場所づくり 第15回：これからの教育の可能性…青年期の発達に即して			
テキスト 広岡義之編『教職をめざす人のための教育用語・法規』（ミネルヴァ書房） 中学校学習指導要領（平成29年3月告示）文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）文部科学省			
参考書・参考資料等 小口尚子、福岡鮎美『子どもによる 子どものための「子どもの権利条約」』（小学館） 佐藤秀夫『教育の文化史』全4巻（阿吽社） そのほか、資料プリントを適宜配布する			
学生に対する評価 授業課題（ノート作成と小レポート）75%、期末課題 25%			

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安原輝彦・和田重雄 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教職の意義、教員の役割、教員の職務内容など、今後の教員の在り方について、法令上の規定、これまでの歴史的な経緯を含め、社会的意義など幅広く学習する。また、教職に就くまでの学びだけでなく、学び続ける教員としての研修の在り方についても考察する。また、時代の変化とともに学校内外での学校課題解決に向けた「チーム学校」の具体的な事例の学習を通して、教職員が学校内外の専門家等と連携・協働する重要性やその在り方への理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教職の意義や教員の役割、資質能力・職務内容等について基本的な知識・考え方を理解し、教職に必要な資質、能力について学び、教職への意欲を高める。また、学校を巡って日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増していることから、これまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。そこで「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視し、組織として諸課題に対応することも学ぶ。学校教育や学校教員の現状や諸課題をふまえて、教職についての理解を深めていきたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション及び授業概要、教職の社会的な位置を学ぶ(担当：安原輝彦・和田重雄)</p> <p>第2回：教職という職業の特徴を学ぶ(担当：安原輝彦)</p> <p>第3回：学校制度や教職の歴史について学ぶ(担当：安原輝彦)</p> <p>第4回：教職の専門性を磨くための教員養成や研修等の制度について学ぶ(担当：安原輝彦)</p> <p>第5回：教育公務員としての服務及び身分保障、権利と義務について学ぶ(担当：安原輝彦)</p> <p>第6回：現代の学校と教師の資質・役割(1)教科指導(担当：安原輝彦)</p> <p>第7回：現代の学校と教師の資質・役割(2)生活・生徒指導、教育相談(担当：安原輝彦)</p> <p>第8回：現代の学校と教師の資質・役割(3)学校経営と学級経営について学ぶ(担当：安原輝彦)</p> <p>第9回：現代の学校と教師の資質・役割(4)特別な支援を必要とする子どもたちへの教育(担当：安原輝彦)</p> <p>第10回：現代の学校と教師の資質・役割(5)進路指導、キャリア教育(担当：安原輝彦)</p> <p>第11回：現代の学校と教師の資質・役割(6)人権教育、環境教育、現代的課題解決に向けた教育(担当：安原輝彦)</p> <p>第12回：学校・教職員をめぐる教育動向と子どもの変容(1)「チームとしての学校」(担当：安原輝彦)</p> <p>第13回：学校・教職員をめぐる教育動向と子どもの変容(2)地域・家庭・多様な専門家との連携(担当：安原輝彦)</p> <p>第14回：学び続ける教師と変化する学校(担当：安原輝彦)</p> <p>第15回：職務の全体像の把握への問い(担当：安原輝彦・和田重雄)</p>			
<p>テキスト 特に指定はしない。</p> <p>各回の授業に関する事前学習・事後学習の具体的な課題については、授業時に指示する。</p>			
<p>参考書・参考資料等 教職概論 改訂版:先生になるということとその学び(協同出版)等</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート評価：70% (各回コメントペーパー、および最終レポート)</p> <p>平常点評価：30% (授業での参加度や発言等)</p>			

授業科目名： 教育制度（法規・制度・行政）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田恵吾 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1) 学校教育を成立、支えている法制度と学校・学級経営に関わる基本的な制度を理解する。</p> <p>2) 学校と家庭、行政や地域社会との連携や協力によって学校が運営されている基礎的な仕組みや変化する社会での課題を学ぶ。</p> <p>3) 現代の学校教育が抱えている諸問題の歴史的、社会的背景について考え、これからの日本の義務教育を発展させるための教育政策の取組と新しい課題について追求することで教育の制度と経営についての認識を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>1) 公教育制度を成立させている基本的な教育法制度を概観した上で、学校や教育行政機関の役割と仕組み、及び教師を取り巻く制度を学習する。</p> <p>2) 安全な学校づくりのための事故防止の基本と対応について理解する。</p> <p>3) 現在の学校改革の動向を調べ、課題解決に向けた学校や地域社会の様々な取組みを学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「教育」とは何か</p> <p>第2回：学校の仕組み①-学校経営とは何か-</p> <p>第3回：学校の仕組み②-学校の法制基盤・行政基盤-</p> <p>第4回：学校の仕組み③-学校教育の主体と地域社会-</p> <p>第5回：近代公教育制度の誕生</p> <p>第6回：近代公教育制度の確立</p> <p>第7回：近代日本の学校教育</p> <p>第8回：教育課程の制度と基本類型</p> <p>第9回：教育制度改革の実際-20c後半のアメリカの事例から-</p> <p>第10回：戦後日本の教育政策-学習指導要領を中心に-</p> <p>第11回：教科書の制度</p> <p>第12回：教育活動を支える学校安全を確保するさまざまな活動</p> <p>第13回：学校教育の現代的課題-部活動の研究-</p> <p>第14回：授業の仕組み</p> <p>第15回：講義のまとめ</p>			
テキスト：『学校の制度と経営』（ミネルヴァ書房）			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業に関わる各種資料を各回ごとに配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業後のコメントペーパー（50%）とともに、毎回授業で提示される学習課題、問題について自己の意見や主張が他者との議論、討論の場を経てどのように変容したかの自己評価、及び他者評価（50%）を加味し、総合評価を行う。</p>			

授業科目名： 教育の心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：馬場久志 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 児童期・思春期・青年期の心身の発達過程について学ぶ。 ・ 発達障害の子どもの特徴について理解し、特別支援教育の基礎知識を獲得する。 ・ 学習の基礎過程について学び、思考・記憶・認知や動機づけへの理解を深める。			
授業の概要 下欄の内容について講義を行う。授業中に課題を設け、受講者とのコミュニケーション及び受講者同士の協働を図る。			
授業計画 第1回：教育心理学の動機と背景 第2回：発達の原理 第3回：児童期の発達 第4回：思春期・青年期の発達 第5回：社会化と自立 第6回：行動の学習理論 第7回：認知的学習理論 第8回：記憶（中間課題） 第9回：学習者の特性と指導 第10回：学習動機づけ 第11回：注意とメタ認知 第12回：発達障害（学習障害） 第13回：教育評価 第14回：テストの作成 第15回：発達・教育の可能性（期末課題）			
テキスト 毎回配付資料を用いる。			
参考書・参考資料等 事前・事後学修のために例えば次の図書を薦める。 心理科学研究会編『中学・高校教師になるための教育心理学〔第4版〕』有斐閣 古屋喜美代・他編『児童生徒理解のための教育心理学〔第2版〕』ナカニシヤ出版			
学生に対する評価 学期の中間及び期末に課す課題提出を40%、授業時毎回の小課題提出や参加実績を60%として、総合的に評価する。			

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：野村春文 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>障害のある幼児、児童及び生徒の理解についての教育に関する歴史的展開を概観するとともに、特別支援教育に関する制度、教育課程や支援の実際について講義する。さらに、障害のある幼児、児童生徒への個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成などの概要を理解し、障害児教育（特別支援教育）の基礎的理解を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：授業内容の概要、特殊教育から特別支援教育への転換について 特別支援教育（1）：理念、制度、歴史について</p> <p>第2回：特別支援教育（2）：仕組み、「通級による指導」、「自立活動」等の教育課程上の位置付けについて</p> <p>第3回：障害の理解（1）：視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等、さまざまな障害の特性に対する理解と支援について</p> <p>第4回：障害の理解（2）：子どもの心身の発達・心理的特性・学習上又は生活上の困難に対する理解と支援の在り方について</p> <p>第5回：教育対象の特徴と指導方法の工夫：発達の課題と子どもの特徴・進路指導とキャリア教育について</p> <p>第6回：特別支援教育の実際：「自立活動」等、事例を通じた支援方法について：</p> <p>第7回：個別の教育支援計画、個別の指導計画：意義及び目的、作成について</p> <p>第8回：母国語や貧困の問題等により、特別の教育的ニーズのある幼児、児童、生徒の学習上又は生活上の困難とその対応について 連携・協働の必要性：特別支援教育コーディネーター、関係諸機関、家庭との連携、支援体制の構築について ・特別支援教育全般のまとめ</p>			
テキスト：資料を配布する。			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>吉田昌義・鳥居深雪編（2011）「特別支援教育基礎論」放送大学教育振興会 文部科学省（2017）「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート課題（50%）、小テスト（30%）、平常点（20%） レポートは、ルーブリック表を用いて評価する。</p>			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：磯田三津子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目 区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学習指導要領の変遷をたどり、今日、生徒が習得すべき学力とは何かについて、そして各学校が設置した教育目標や課題に基づいて教育課程の編成の方法を理解する。以上に基づいて各学校がカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業は大きく六つのテーマに基づいて教育課程についての理解を深める。(1) 教育課程の基礎的理論を学ぶ。(2) 顕在的カリキュラムと潜在カリキュラムを知る。(3) 学習指導要領の歴史的な変遷をたどり、改定ごとに求められてきた学力観について整理する。(4) 現行の学習指導要領の特質を明らかにする。(5) カリキュラム・マネジメントの考え方と、その実際を探求する。(6) 社会に開かれた教育課程の実際について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育課程とは何か：小・中・高等学校のカリキュラムにみる教育課程 第2回：教育課程と教師：学習指導要領・自治体のカリキュラム・学校のカリキュラムと教師の関係 第3回：顕在的カリキュラムと潜在カリキュラム：潜在カリキュラムの実際とその課題を知る 第4回：学習指導要領の変遷（1）：戦後新教育期について 第5回：学習指導要領の変遷（2）：教育の現代化と学力観 第6回：学習指導要領の変遷（3）：ゆとりある教育課程と生活科・総合の導入 第7回：学習指導要領の変遷（4）：グローバルな知識基盤社会と確かな学力 第8回：現行の学習指導要領にみる学力：資質・能力とアクティブラーニング 第9回：教育課程の類型（1）：経験カリキュラムと生活科・総合 第10回：教育課程の類型（2）：教科のカリキュラムと系統性 第11回：総合的な学習の時間を核とした各学校のカリキュラム：総合と各教科を関連付ける 第12回：教育課程の研究制度：研究開発学校制度と各学校の教育課程 第13回：カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価：カリキュラム・マネジメントの実際 第14回：地域とつながる教育課程：総合的な学習と地域学習 第15回：特色のある教育課程：持続可能な開発のための教育（ESD）、国際理解教育</p>			
<p>テキスト</p> <p>教育課程（MINERVAはじめて学ぶ教職 10）、ミネルヴァ書房、吉田武男（監修）、根津朋実（編集）、2019年。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ● 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ● 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） ● 『これからの教育課程とカリキュラム・マネジメント』ぎょうせい、吉富 芳正、村川 雅弘、田村 知子、石塚等、倉見昇一（編著）、2020年。 			
<p>学生に対する評価</p> <p>各回の授業でのレポート（60%）、最終レポート（40%）で評価する。</p>			

授業科目名： 特別活動・総合的な 学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加藤明良、小池由美子、 大井はるえ、矢野博之 担当形態：複数・オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合的な学習（探究）の時間の指導法 ・特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 ・特別活動の意義や目標及び内容を理解し、特別活動の指導の在り方を理解できる。 ・総合的な学習の時間の意義や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解できる。 ・総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けている。 ・総合的な学習の時間の指導と評価の考え方及び実践上の留意点を理解できる。			
授業の概要 今日の学校教育における特別活動や総合的な学習（探究）の時間の意義と役割について学習指導要領に基づいて理解を深める。特別活動に関しては、その実践に向けて学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動や学校行事、また地域貢献活動、さらには自己の進路実現に向けた体験活動等の特質を考察することを通して、実践的な指導力の育成を目指した基礎的な理解に向けた学習をする。また総合的な学習の時間では、教科等で育まれた知識や技能を活用し、多面的・多角的に考察して課題を解決する力を育成するとともに、自己の在り方や生き方を考えていく資質・能力を育む指導計画の作成や指導・評価の方法等について学ぶ。教科外活動を通じて「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点から、実践事例を通じて特別活動や総合的な学習（探究）の時間の諸活動の特質と効果を考察し理解を深める。			
授業計画 第1回：特別活動の目標と内容と教育課程における位置づけ（担当：小池由美子・矢野博之） 第2回：学級活動（ホームルーム活動）の実践（担当：小池由美子） 第3回：生徒の自主的活動（生徒会・部活動）の実践（担当：加藤明良） 第4回：学校行事の実践（担当：加藤明良） 第5回：特別活動の指導計画と家庭、地域社会等との連携による指導体制の構築（担当：小池由美子） 第6回：特別活動と各教科、道徳、総合的な学習の時間との関連（担当：小池由美子） 第7回：特別活動とキャリア教育、進路指導、生徒の指導との関連（担当：加藤明良） 第8回：「指導と評価の一体化」を目指した特別活動（担当：小池由美子・矢野博之） 第9回：総合的な学習（探究）の時間の意義と目標・内容（担当：大井はるえ） 第10回：総合的な学習（探究）の時間の単元計画の作成（担当：大井はるえ） 第11回：課題の発見・解決の能力を育む単元開発と指導・評価の工夫（担当：大井はるえ） 第12回：論理的思考力・批判的思考力を育む単元開発と指導・評価の工夫（担当：大井はるえ） 第13回：教科と関連性を図る単元開発と指導・評価の工夫（担当：加藤明良） 第14回：総合的な学習（探究）の時間の単元開発・年間指導計画（担当：加藤明良） 第15回：総合的な学習（探究）の時間のカリキュラム評価と改善（担当：加藤明良）			
テキスト 『特別活動と総合的学習・探究の理論と指導』（中園大三郎他著、学術研究出版）			
参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（文部科学省） 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』（文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』（文部科学省）			
学生に対する評価 各回の確認テスト・リアクションペーパー（75%）と課題レポート（25%）で評価する。			

授業科目名： ICTを利用した教育方法・技術論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 和田重雄、磯田三津子 担当形態：複数・オムニバス
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 		
授業のテーマ及び到達目標 情報通信技術を活用した学習指導や校務の推進の在り方、教育方法の理論と技術を理解し、ICTの教育的意義を踏まえて情報活用能力を育成するための指導法を含めた教育の方法や技術を学び、身に付ける。到達目標は、①学習理論や授業設計の理解、②ICTを用いた学習指導・評価の理解、③情報活用能力の理解、④教育方法とICTを統合した模擬授業による実践力獲得に加え、⑤多様な学習者や新たな教育課題に対応するICT活用の理解と応用力の獲得である。			
授業の概要 教育方法の理論と実践や学習評価を理解した上で、学習理論・学習評価を扱い、教育方法の基礎を理解する。さらに、情報通信技術の活用と意義を理解した上で、学習指導や遠隔教育・情報モラル等の情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方を学ぶ。教科教育とプログラミング的思考の統合、外国人生徒など多様な学習者への対応、生成AIなど新たなICTツールの教育的活用を含め、現代的課題に対応した授業設計を探究する。最後に統合した模擬授業を実施して、情報活用能力を育成するための指導法を身に付ける。			
授業計画 第1回：求められる資質・能力（担当：磯田三津子） 第2回：主体的・対話的で深い学びの実現（担当：和田重雄・磯田三津子） 第3回：学習理論と授業実践をつなぐ（担当：和田重雄・磯田三津子） 第4回：学習方法、学習過程、学習の形態（担当：磯田三津子） 第5回：「指導と評価の一体化」のための学習評価（担当：磯田三津子） 第6回：学習指導案作成の概要（担当：磯田三津子） 第7回：ICT教育の基礎と意義（担当：和田重雄） 第8回：ICT活用授業の設計（担当：和田重雄） 第9回：学習履歴データを活用した学習評価（担当：和田重雄） 第10回：ICT活用授業の発展形（遠隔教育・オンライン教育を含む）（担当：和田重雄） 第11回：教科教育とプログラミング的思考の統合（担当：和田重雄） 第12回：ICT活用教育における探究型経験学習の授業の方法と設計（担当：和田重雄） 第13回：多様な学習者に対応するICT授業設計と教育方法（担当：和田重雄・磯田三津子） 第14回：教育方法×ICT統合模擬授業Ⅰ 学習指導案作成（担当：和田重雄・磯田三津子） 第15回：教育方法×ICT統合模擬授業Ⅱ 授業実践（担当：和田重雄・磯田三津子）			
テキスト 「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」 文部科学省（実教出版） 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社）			
参考書・参考資料等 「ICT活用の理論と実践 DX時代の教師を求めて」 稲垣忠，佐藤和紀（北大路書房）			
学生に対する評価 各回の確認テスト・リアクションペーパー（75%）と課題レポート（25%）で評価する。			

授業科目名： 生徒指導・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：馬場久志 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及びキャリア教育の理論及び方法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期の生徒の発達課題や生活課題について、実態を知り指導の在り方について学ぶ。 ・生徒の進路形成に必要な自己理解・評価力とキャリア意識の意味と指導の在り方について学ぶ。 ・生徒の成長と自立への過程を支える教師の活動と社会的連携について理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>下欄の内容について講義を行う。授業中に課題を設け、受講者とのコミュニケーション及び受講者同士の協働を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校に行くということ</p> <p>第2回：生徒指導、進路指導、キャリア教育の概観</p> <p>第3回：いじめ問題の理解</p> <p>第4回：いじめ問題への対応</p> <p>第5回：不登校の理解</p> <p>第6回：体罰</p> <p>第7回：非行問題と指導</p> <p>第8回：自己肯定感の育成</p> <p>第9回：自己理解と進路指導</p> <p>第10回：多様な学びの場と学びの保障</p> <p>第11回：職業観の形成</p> <p>第12回：学年進行と進路・キャリア意識</p> <p>第13回：教科指導を生かした職業理解</p> <p>第14回：キャリア教育における学校・家庭・社会の連携</p> <p>第15回：生徒指導、進路指導、キャリア教育における教員と学校の役割</p>			
<p>テキスト</p> <p>毎回配付資料を用いる。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『生徒指導提要（改訂版）』（文部科学省，令和4年）ほか、事前・事後学修のために以下の図書を薦める。</p> <p>春日井敏之・山岡雅博編著『生徒指導・進路指導』ミネルヴァ書房</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>学期の中間や期末の課題提出を40%、毎回の授業時の小課題提出や参加実績を60%として、総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：馬場久志 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期の子ども心理的特徴について理解する。 ・教育課題である不登校、いじめ、逸脱行動等についての実態を知り、対応について学ぶ。 ・教育相談の基本を学び、教育相談の在り方について具体的な場面を通して認識する。 ・生徒全体を対象とした予防的・開発的心理教育の意義と手法について理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>生徒の学校生活における諸課題に対して、事例や統計などから多角的に学ぶ。 教育相談の基礎を学び、その意味について学校教育および発達心理の観点から考える。 教育相談の事例を通して個別対応への理解を深め、また集団に対する予防的・開発的教育相談についても学ぶ。 学校内外における組織的対応や、保護者との連携の重要性を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校教育の今日的課題と教育相談 第2回：カウンセリングとは何か 第3回：不登校の理解 第4回：不登校と教育相談 第5回：いじめ問題と教育相談 第6回：発達障害の理解 第7回：生徒のSOSの受け止めと教育相談 第8回：虐待問題 第9回：予防的・開発的教育相談と生徒の多様性の理解 第10回：アセスメントと評価 第11回：家庭環境の理解 第12回：児童養護の諸機関 第13回：保護者との連携 第14回：校内外の連携 第15回：教育相談における教師・学校の役割</p>			
<p>テキスト</p> <p>毎回配付資料を用いる。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>事前・事後学修のために以下の図書を薦める。 春日井敏之・他監修『教育相談』ミネルヴァ書房</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>学期の中間や期末の課題提出を40%、毎回の授業時の小課題提出や参加実績を60%として、総合的に評価する。</p>			

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習（中・高）		単位数：2単位	担当教員名：馬場久志、和田重雄		
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	20人				
教員の連携・協力体制 入学時より履修カルテを活用し、学修の進行を教職関係科目担当教員間で共有する。					
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：力量ある中学校・高等学校理科教員としての資質・能力の向上 到達目標：①教員の使命や職務についての基本的な理解を確かなものとし、②教育現場における社会性や基本的な対人関係能力を身につけ、③生徒の発達や心身の状況についての理解、学級経営等についての基本的な理解と技能を確かなものとし、④教科への理解を深め、それを生かした学習指導案の作成や授業スキルを身につけるなど、指導力の基本に関する事項を学習し獲得する。					
授業の概要 教員としての資質能力を高めるために、教員の教育活動を多面からとり上げた演習を展開する。①教員の使命や責任と職務の遂行、児童の権利の擁護に関する事項、②社会的関係および対人関係を営む能力やその技能に関する事項、③生徒理解や学級経営などに関する事項、④教科その他の教育活動の指導力向上に関する事項などにわたり、課題を設定する。これらについて、事例の研究や参観、教職経験者の経験に学び、また模擬授業や役割演技などを行って理解を深める。このことを通して4年次前期までに培った資質能力の統合と拡充を図る。					
授業計画 第1回：履修カルテを活用したこれまでの学修の振り返りと各自の学修課題の設定（担当：馬場久志、和田重雄） 第2回：教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任（担当：馬場久志） 第3回：今日の学校教育における諸課題（担当：馬場久志） 第4回：学級経営と学級集団（担当：馬場久志） 第5回：生徒理解と個別支援（ロールプレイを含む）（担当：馬場久志） 第6回：校内の連携（担当：馬場久志） 第7回：校外との連携（担当：馬場久志） 第8回：学校参観（担当：馬場久志） 第9回：教科指導力向上の意義（担当：和田重雄） 第10回：教科内容等の理解と指導（担当：和田重雄） 第11回：授業動画の視聴（担当：和田重雄） 第12回：模擬授業（1）生徒の主体性を活かす授業づくり（担当：和田重雄） 第13回：模擬授業（2）ICTの活用（担当：和田重雄） 第14回：各自の課題発表（担当：馬場久志、和田重雄） 第15回：教員の基本的資質・能力の確認とまとめ（担当：馬場久志、和田重雄）					
テキスト 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説理科編（令和3年8月改訂 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説理科編理数編（令和3年8月改訂 文部科学省）					
参考書・参考資料等 随時紹介する。					
学生に対する評価 授業時のグループ活動への参加・発表の状況、参観・体験学習のレポート、自らの課題に対する学修成果などにより、評価を行う。					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。